

連載「テープ録音機物語」の著者 阿部 美春さんを偲んで

編集委員 藤本 正熙

2004年7月号から2012年11月号まで、JASジャーナルに連載「テープ録音機物語」を8年間の長きにわたって執筆いただいた阿部美春さんが1月2日に逝去（享年81歳）されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

日本オーディオ協会創立50周年記念事業として2001年10月にJASジャーナル特別号「オーディオの世紀」を刊行しましたが、より詳細に日本のオーディオの足跡を記録に残すため、電音、TEACで谷勝馬さんと共に録音機器の開発・事業化を手がけられた阿部美春さんをお願いして、2003年7月号より8回連載で「国産円盤録音機物語」(全58ページ)を執筆いただきました。「テープ録音機物語」はこの姉妹編として毎回読切り形式で「その66」まで合計515頁を執筆いただいた阿部さん渾身の力作です。

阿部さんは、あと2回分、dbxとセミプロ用マルチトラック録音機を執筆のご意向でした。TASCAMとFOSTEXでパーソナルレコーディング機器やガレージスタジオの道を拓いた阿部さんに是非とも書き残していただきかったと悔やまれます。

阿部 美春（あべ よしはる）さん（1931年～2013年）のご経歴



磁気録音との関わりはDENON(1951年)の頃からで、以来半世紀、専ら業務用とHi-Fi用機器の開発畑を歩く。DENON、YAMAHAを経て1957年、TEAC設立に参加、ステレオテープデッキ、ステレオカセットデッキ等の開発に着手、テープステレオ時代の基礎を築く。

1971年からは音楽家用MTR(マルチトラックレコーダー、TASCAMブランド)とミキサーの開発に着手、今日のパーソナルMTR(通称パソレコ)の基礎を作る。1981年FOSTEXに転じ、録音機器部門を新設、パソレコの普及に努める。さらに1981年、主にカセット用テストテープを製造、販売するABEX(現ALMEDIO)の設立に参加。TEACでは取締役オーディオ技術部長、同特機(TASCAM)常務取締役他、FOSTEXでは副社長(1991年退職)など歴任。

1958年頃から磁気録音関係の標準化活動に参加し、EIAJ、JIS、AES、IECなど、各委員会幹事、委員長など歴任、1979年AESフェロー、1989年通産大臣賞、1994年藍綬褒章、1998年EIAJ功労賞。2008年に磁気録音技術への貢献により日本オーディオ協会賞を受賞。

主な著書としてはテープレコーダ、(1969年編著、NHK出版)、録音のテクニック(1974年共著、同)、カセットデッキ(1980年著、同)他。2000年から専ら執筆活動で2003年よりJASジャーナルに「国産円盤録音機物語」、「テープ録音機物語」を連載。